

学校の教育目標

「強く」「正しく」「豊かに」

学校経営方針（確かな学力向上に関わる内容）

学校の教育目標を具現するため、児童の発達段階に即した学年目標を設定し、児童が意図的・計画的・創造的に学習や生活に取り組む資質・能力・態度を育てることを目指した教育課程を編成する。

確かな学力向上に向けた具体的な取組

基礎的・基本的な知識・技能の習得	・基礎的・基本的な学習内容の確実な定着のために、放課後の時間を活用し少人数指導での学習を計画的に行う。夏季補習や水泳・跳び箱等のサポート教室を実施する。保護者や地域社会の学生によるサポーターを幅広く受け入れる。
思考力・判断力・表現力の育成	・関わる力や思考力・判断力・創造力・表現力をバランスよく育むため、教科の特性や単元の内容に応じた様々な言語活動や、小集団・小グループによる学び合いを取り入れた主体的・対話的な学習活動（アクティブ・ラーニング）を重視する。
主体的な学習態度の育成、学習への意欲	・自ら課題をもち、自ら学ぶ態度の育成を図るために、学びたい、深めたいと実感できる学習課題の設定や必然性のある学び合いの交流場面の位置付けをする。児童が学習の中でタブレット端末や大型テレビなど ICT 機器を活用できるように学習環境を整える。

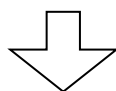
「学習力サポートテスト」「学力向上を図るための調査」「全国学力・学習状況調査」及び1学期の学習状況の成果と課題 ○結果分析から明らかになった成果 ▲結果分析から明らかになった課題

	第4学年	第5学年	第6学年
国語	○大事なことや話の中心に気を付けて聞き取っている。論の展開や前後の文脈から内容を読み取る力が育っている。 ▲ローマ字の理解や国語事典の使い方に課題がある。相手意識をもち文章でわかりやすく伝えること、段落や言葉の順序、文末に気を付けて文章を書くことに課題がある。	○話し合いの目的や話題を意識して計画的に話し合っている。行動描写や情景描写の効果を考えながら人物の心情を読み取ったり、筆者の主張に対して自分の考えをもったりすることができる。 ▲文章全体の構成や論の進め方を考えながらわかりやすく書くこと、伝えたいことを明確にし、話の中心をとらえて伝えることに課題がある。	○話し手の意図や話し方の工夫を考えながら、内容を聞くことができる。自分の意見を整理し理由と区別して考えをまとめることができる。敬語の使い方を理解している。 ▲漢字を書くことや同訓異字の使い分けに課題がある。
算数	○時刻や時間を求める少人数指導により児童が集中して学習に取り組んでいる。計算方法の理解と処理能力が身に付いている。 ▲問題から□を使って立式したり、問題の性質や意味から求め方を式で表したりすることに課題がある。	○立体の体積の求め方を理解している。 ▲問題から必要な情報を取り出し解決につなげていくことに課題がある。	○小数・分数の技能や直方体を組み合わせた体積の求め方がわかる。 ▲図形の特徴を見だし、既習事項を活用して面積を求めることに課題がある。

社 会	○調べ学習に対して意欲的に取り組む。 ▲昔の暮らしについての知識の定着が課題である。地図や方位等の資料活用に課題がある。	○様々な地域の人々の暮らしや産業の様子を意欲的に調べている。都道府県や東京都の地形に関する知識が定着している。 ▲資料を読み取ったことから人々の工夫や努力、産業の特色について考えることに課題がある。	○地形や産業に関する資料の読み取り方や生産過程での工夫が理解できる。 ▲生産物の品質を高める工夫や努力について自分の考えをまとめることに課題がある。
理 科	○実験や観察に対する意欲が高い。空気や電気の特性について、自分の考えを図や文で表現することができる。 ▲科学的な用語を用いて結果や考察を表現することに課題がある。実験・観察に必要な道具の正しい使い方に課題がある。	○理科に対する関心が高い。実験や観察の目的を踏まえて、条件を考えながら実験を組み立てることができる。 ▲実験器具の使い方や実験の進め方の理解に課題が見られる。実験の結果から根拠をもって考察することに課題がある。	○理科に対する関心が高く、課題解決の過程を楽しんでいる。条件を考えながら実験計画を組み立て、結果をもとに自分の考えを深めている。 ▲学習内容が自分の知識として定着していくことに課題がある。
調査以外の教科についての成果（○）と課題（▲）	＜音楽＞ ○各学年とも音楽への関心、学習に対する意欲が高い。興味をもって音楽を聴き、そのよさを発表したり感想としてまとめたりすることができる。 ▲全体的にリコーダーの技能面に課題がある。音楽表現の工夫については受け身の姿勢が見られる。 ＜図画工作＞ ○全体として意欲的に楽しく作品を制作している。考えたことをていねいに表現しようとする。 ▲考えを深めたりイメージを膨らませたりすることが不十分である。互いの作品のよさに気付いているが、それを相手に伝えたり共有したりすることに課題がある。 ＜体育＞ ○体育に関する興味・関心が高く小集団による学び合いに意欲的に取り組んでいる。リレーや水泳・マット運動では、自分やチームの課題を達成できるよう教え合い協力し合って運動に取り組んでいる。 ○どの領域の運動遊びにも進んで取り組み、基本的な体の動かし方がわかっている。		
調査以外の学年について 1学期の学習における成果（○）と課題（▲）	第1学年	（国） ○漢字、平仮名の読み書きができる。自分の想像を広げて物語を読むことができる。考えたことや経験したことを3文程度の文章で書くことができる。 ▲順序を考えて話したり最後まで聞き取ったりすること、拗音・促音・助詞を適切に使用することに課題がある。 （算） ○加減法の意味がわかり、加減計算が正しくできる。 ▲用具を使って自分の考え方や計算の意味・方法を説明することに課題がある。 （生） ○体験活動を通して植物の生長や変化に気付くことができる。学校生活に関心を持ち、友達や上級生と進んで関わるができる。 ▲わかったこと、考えたことを絵や言葉で表現することに課題が見られる児童がいる。	
	第2学年	（国） ○意欲的に発言したり、読書活動に取り組んだりしている。物語のあらすじや登場人物の気持ち、場面の様子を考えて音読することができる。漢字の読み書きがおおむねできている。 ▲伝えたい事柄の順序を考えて話すことや書くことに課題がある。正しい書き順で漢字を書くことや言葉の意味の理解に課題のある児童がいる。	

		(算) ○学習に対する関心・意欲が高い。筆算による加減の技能は確実に身に付いている。 ▲既習事項を生活の中で見付けたり、生活に生かそうとする態度に課題がある。 「時刻と時間」「かさ」「長さ」の単位換算、計算の仕組みの考え方に課題が見られる。 (生) ○活動を通して、自分の気持ちを絵や文に表すことができる。
	第3学年	(国) ○漢字の読み書きとその活用については概ね良好である。話し合いのめあてを意識して取り組もうとする児童が増えている。自分の伝えたいことを適切な音量や速さ、言葉遣いで話すことができる。 ▲話の中心に気を付けて聞き、質問や感想を伝えること、内容の中心を明らかにしながら順序を考えて書くことに課題がある。 (算) ○かけ算・わり算の計算力が身に付いてきている。時間の単位、時間と時刻の求め方がわかる。 ▲問題文の解き方の手順を考えたり立式したりすることに課題がある。 (社) ○調べたことを図や写真を活用してわかりやすくまとめることができる。 ▲地図記号や方位などに関する知識の定着や資料の読み取りに課題がある。調べたことを比べたり関連付けたりしながら考えることに課題がある。 (理) ○植物や昆虫の観察の視点を捉えて学習することができ、からだのつくりや生長の様子を理解できた。植物の生長の様子を比較し、その違いや共通点に気づき、自分の考えを表現することができる。 ▲課題に対して予想したり結果から考察したりすることに課題がある。

昨年度の授業改善プランに基づく結果（○）と主な課題（▲）	
○学力向上を学校全体の計画的な取組とするために授業改善プランを作成し活用した。思考力・判断力・表現力に課題があったが、小集団活動を柱とした授業改善によって一人一人に表現したり考えを交流したりする場面を意図的に設定した結果、児童は学び方や考えの深め方を学んだり表現することのよさを感じ取ったりすることができた（学習感想より）。基礎的・基本的な学力の向上に加えて、考えの視野が広がり、児童自身の学びへの意欲や探究心が育っている。 ▲学習力サポートテストや学力向上を図るための調査等の結果を受け、各学年・教科ごとに分析し授業改善に取り組んだが、さらに効果的に授業改善を推し進めるために、顕著な項目や傾向に着目して分析し、重点を絞った上で指導計画や指導方法、評価の仕方などに修正を加え、実践につなげていきたい。	



改善の方針	学習力サポートテストや学力向上を図るための調査等の分析結果、1学期の学習状況を総合的に捉え、学級・専科で授業改善プランを作成する。その中で学年学級や教科における傾向を分析し、本校としての改善の重点項目を明らかにした上で指導計画や指導方法を工夫し、実践する。 1 自ら課題をもち、自ら学ぶ態度の育成 →学びたい、深めたいと実感できる学習課題の設定と必然性のある交流場面の位置付け 2 関わりの力（コミュニケーション能力）や思考力・判断力・創造力・表現力の育成
-------	--

	→教科の特性や単元の内容に応じた様々な言語活動、小集団や小グループによる対話・協働的な学習活動の重視 3 基礎的・基本的な学習内容の確実な定着 →少人数指導の充実、各サポート教室の実施
【本校の授業改善に向けた具体的な方策】 ○学校全体として取り組む項目 △教員個々が取り組んでいる項目	
・改善のための指導計画	○年間指導計画の中で課題とする教科の指導内容を重点化し、学年の系統性を踏まえて指導計画を見直す。 ○健康教育、人権教育、オリンピック・パラリンピック教育等の教育課題について全体計画を見直し、指導の重点や教科等との関連を明確にして各指導計画に位置付け、実践する。
改善する指導内容 (教科、領域、観点等)	改善のための指導方法、指導体制
・学校全体で取り組む改善点 ・思考力・表現力の育成 ・豊かな感性やコミュニケーション力の育成 ・国語「話す・聞くこと」 「書くこと」 「読むこと」	○改善の方針を具現するために 1 教科の特性や単元の内容に応じた様々な言語活動の充実を図る。(活動への支援→話型の提示・適切な場面でのロールプレイの実施 等) 2 ペア学習や小グループ活動による主体的で対話的かつ協働的な課題解決型の学習活動を学習過程に位置付ける。 3 学びの広がりや深まりが確認できるよう教科等の特性と学年の発達段階に応じて、授業の終末に学習活動を振り返るを行う。 4 授業における ICT の効果的な活用方法を検討し、児童の主体的な学習を支援する。 ○学習場面において、児童一人一人が思考し自分の考えを明確にしたり深めたりするために、児童が考える時間を確保し、小集団による話し合い活動を適切に取り入れる。 ○思考力や表現力を高める手立てとして、話し合う学習活動だけでなく、書く活動も効果的に学習に取り入れていく。また、思考力を育てるために、終末の学習感想等でその時間に深めた自分の考えや根拠を振り返る時間を確保する。 ○思考力・表現力を育成するために、物事を考えるための技法(比較や分類、関連付けなど)や帰納的、演繹的な考え方などを活用して説明する力を身に付けさせる。 △思考力が身に付くノート指導の充実を図る。 ○言葉や絵、歌、動作化など身体を伴う体験活動から感じ取ったことを記述したり、小集団活動や身体表現などを通じて互いに共感したり深め合ったりする場面を意図的・計画的に指導計画に位置付ける。 △正確に聞き取る力を身に付けるために、話型を示し、話し方や聞き方の具体例を示したり、ペアや小集団活動を多く取り入れ、互いに伝え合う活動の機会を設定したりする。 △意見文や報告文の書き方の理解を深めるために、学習の手引きを作成・活用したり、サンプル学習を取り入れたりする。 △段落ごとの文章内容をカード化して、文章全体の順序を考えやすくする。 △語彙量を増やすために辞典を活用して言葉を調べる学習を重視する。 △読みの力の定着を図るために、音読カードを活用し、家庭学習を習慣付ける。課題に対する自分の考えをつかむ力を身に付けるために小集団活動を

・算数「数学的な考え方」 「知識・理解」 ・社会「思考・判断・表現」 ・理科「思考・表現」 「技能」 ・音楽「表現の技能」 ・図工「創造的な技能」 「鑑賞の能力」 ・体育「思考・判断」	活性化し、友達との意見の共通点や相違点に気付かせながら考えを深められるように指導する。 △算数科の思考力を高めるために、具体物や図表などを用いて算数的活動を積み重ねる。また、問題解決の方法を考える時間を確保する。小集団の話し合い活動を通して、多様な問題解決方法に触れる授業を展開する。既習事項や算数用語を活用して適切に自分の考えを表現できるようにする。 題意をしっかりと理解するために、図や数直線を用いて課題解決する方法を身に付ける。 △小集団での活動を適切に取り入れ、考えの根拠を示して説明する方法をモデルを使って具体的に提示する。 △授業の冒頭に前時の復習（振り返り）の時間を設け、知識・理解の定着を図る。 △学習課題に対して、自分たちの生活と関連付けながら考えを深められるようにするために、効果的な資料の選択と提示の仕方を工夫する。 △考えることの楽しさを味わわせるために、課題の与え方や発問の仕方を工夫する。また、小集団活動を適切に取り入れ、発表できる場や時間を確保する。 △問題解決能力を高めるため、「1 課題設定→2 仮説→3 実験・観察の方法→4 検証→5 結果の整理（一般化）→6 考察→7 学習感想（振り返り）」とした学習のプロセスを確立する。 △実験器具を意図的に繰り返して使用し、技能の定着を図る。 △観察や実験の技能を高めるために、小集団による話し合いの時間や体験的な学習活動の時間を確保する。 △役割を分担し、全員が実験技能を習得できるようにする。 △リコーダーの基本奏法を習得させるために、簡単なスキルの反復練習をする。個々の技能を高めるために、小集団による学び合いの学習活動を取り入れる。 △新しい道具を安全に使えるように指導を重ねる。アイデアスケッチをしたり考える時間を十分に与えたりして、自分らしい表現で作品づくりができるようにする。 △鑑賞の機会を増やし美術作品に親しむとともに、そのよさを伝え合い、共有できるよう働きかける。 ○小集団内での話し合いの観点を明確に提示する。 ○個人カード（チームカード）等の記述・情報の分析や、行動観察に基づくフィードバック活動を積極的に行う。 ○資料活用の際には、その意図や使い方について丁寧に解説をする。
評価活動の工夫	○教科等の評価規準をより明確にして、具体的に指導して児童の変容を計画的・段階的に評価する。評価状況を分析し、次への指導の工夫・改善につなげる。 △学習の過程や自分の考えのプロセスがわかるようなノート指導をする。 ○ノートや学習カード、ワークシートに学習意欲の向上や次の学習へのステップにつながるような評価を具体的に記述する。 ○授業の終末に学習を振り返り、児童の理解の状況等を把握する。
家庭や地域との連携の工夫	○基礎的・基本的な学習内容の確実な定着のために、放課後の時間を活用した個別指導や夏季補習、夏季水泳サポート教室等を実施する。学生による

	学習サポーターを幅広く受け入れる。また、家庭学習により学びの習慣を身に付けていく。 ○特別に支援が必要な児童は、家庭との連携を図り課題の取り組み方について相談する。 ○プラスバンド活動・わんぱく相撲・羽根つき大会等に保護者によるサポーターの協力を求め、指導の充実を図る。学校と家庭が一体となって児童の健全育成に当たる。
検証方法	○総括的なテストだけでなく、発言記録、ノート・ワークシート・学習カード・鑑賞カードの記述や発言内容、学習意欲・態度、児童の観察（変容）、小集団による学び合い、言語活動、表現活動（技能を含む）、作業や操作の状況、小テスト等による形成的評価、家庭学習の状況なども重視する。 ○教員間で授業の改善状況を報告し、評価し合う。 ○診断テスト（レディネステスト・東京ベーシックドリル等）を利用し、児童の実態把握や個に応じた指導が効果的に実施できたかを検証する。 △個別指導の記録をとり、学習状況を見取って改善の効果を検証する。 △道具や器具の使い方を観察し、正しい実験観察の方法や作品の表現の仕方について検証する。

【学力向上を支えるその他の取組】

- 校内研究会の充実
 - 研究授業や実践報告（幼稚園を含む）・研究協議会の実施、他教科等への応用・発展、交換授業の推進
- 特別支援教育・校内委員会の充実
 - 個に応じた支援活動、講師を招いた研修会・講演会、教員と保護者・関係機関との連携
- 読書タイム・読み聞かせの会、放課後や夏季の補習、各サポート教室、音楽・体育朝会、全校集会の充実
- 外部講師の招聘、ボランティア（地域住民・保護者・学生）の協力
- 学校評議員会・第三者委員会・保護者アンケート等の重視、授業参観・土曜参観・学校行事の充実
 - 教育活動への理解と協力